



発行者：社会福祉法人じねんじょ
発行日：令和5年9月1日
TEL：083-252-2227
FAX：083-252-2259
E-mail：jinenjo@jinenjo.or.jp
<http://www.jinenjo.or.jp>

大地

(じねんじょ通信)

VOL.
40
2023/9

20年目と20年後に向けて

社会福祉法人じねんじょ理事長 金原洋治

5類感染症法上の位置づけ変更とじねんじょの活動

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症になったことで活動の制限が大幅に緩やかになり、私たちの生活も以前の日常に戻りつつあります。現在、新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にありますが、流行株「XBB株」はある程度の感染予防対策を行なながら、コロナ禍の前と同等レベルで実施して良いと思います。一方では、幼児を中心に、RSウイルス感染症などの毎年流行する呼吸器感染が、かつて経験したことのないくらいに流行しています。(長期間の過度な感染対策の反動現象だと考えられています。)むくっこ利用者においては、流行期には、これらの感染症への対応も併せて行う必要があります。



マスク生活とコミュニケーションへの影響

長期間にわたる厳重な感染対策は、一定の効果がありましたが、いくつかの負の影響ももたらしました。私は、1番の弊害はマスク依存症だと思っています。政府がマスクの着脱は各個人の判断で行うようになって2か月が



過ぎましたが、職場や会議でさえ多くの方はマスクをしたままで、発言内容も聞き取りにくいです。発達障害、心身症や児童精神分野を扱う私の相談外来では、目だけでは相手の表情が読み取れないので、親御さんにも子供さんにもマスクを外していただくようにお願いしています。“目は口ほどに物を言う”ということわざがあり、確かに、目は多くのことを伝えますが、目から下の表情筋も非言語的コミュニケーションの重要な役割を果たしています。職場や会議でも、「(お互いに)マスクを外してお話ししたいな」と思っています。

20年目と20年後に向けて

じねんじょは、令和6年4月に20年目の春を迎えます。設立の中心となった親の会フロレスタの皆様、理事や評議員の皆様、保護者会の皆様、育む会の皆様、寄付をいただいた皆様、ボランティアの皆様、地域の皆様、学校や幼稚園、保育園、ほかの事業所の皆様、行政の皆様に多大なご支援をいただき、その時々の支援ニーズに見合った事業を展開してまいりました。今後とも、重症心身障害がある方や医療的ケアが必要な方々のベースキャンプとして活動を続けて参ります。令和6年に記念行事を行い、20年を振り返るとともに、皆様と一緒に祝いしたいと思っています。今後とも、ご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



『変化』

令和5年5月8日より、新型コロナウイルス感染症が5類感染症になりました。
今号では、「変化」をテーマとして、以前の形から変わったこと、コロナ禍を通してあった変化、
メンバーの姿を皆さんにお伝えします。

生活介護サービス事業所 じねんじょ・だいち

友近890さん ライブパフォーマンス

6月1日(木)書道パフォーマー、シンガーソングライターの友近890(やっくん)さんが来所され、ライブパフォーマンスをしていただきました。

昨年、友近さんとの縁があったメンバーの紹介で、オンラインでのライブを行いました。今回は対面、マスクを外してのライブを行うと、音楽の生音に感動と刺激をもらい、メンバーの反応に友近さんも返してくださいと、とても盛り上がるライブとなりました。終了後にはリモートで参加していた、だいちメンバーとの交流も行って多くの刺激を得られた日になったと感じました。



角田恵美さん エレクトーンコンサート

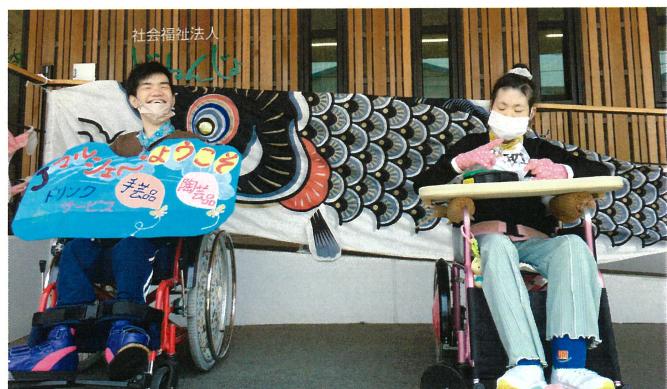
7月31日(月)にはエレクトーン奏者の角田恵美さんによるコンサートがありました。メンバーが司会の役割を担い、いつも以上に盛り上がるコンサートとなりました。



Jマルシェ

喫茶班では6月から屋内でドリンクを飲んでいただけるようにしています。もちろんテイクアウトも行なっています。テイクアウトの時と違って、お客様が屋内でゆっくりしていただけたとすると、交流も深まり、お互いのことをより知ることができます。お客様が来られるとメンバーが張り切って生き生きとした表情になっています。

気軽に立ち寄って喉と心を潤していただけたと嬉しいです。



外部イベント参加

7月19日(水)に下関市民会館で行われた、福祉施設等活動展に出展、販売を行いました。

コロナ禍においてもメンバーが日々の活動で継続して取り組んできた、陶芸・手芸の作品を、直接お客様にご覧いただき、手に取っていただけたこと、販売できることに喜びを感じることができました。

今後はJマルシェだけでなく、外部のイベントにも積極的に参加し、地域の皆さんに作品をお届けしたいと思っています。これからも、メンバーの作り出すオンラインの作品にご期待ください!



* 放課後等デイサービス むく *



コロナを経験したからこそ、メリットもたくさん発見できました。

ボランティアや外部イベントの方を、事業所にお招きするのを控えたり、メンバーの大好きな外出を控えたりしていたコロナ禍。オンラインという画期的なツールを見出し、画面上での繋がりを細く長く保ちました。そして、この夏、再び演奏会を開くことができました。やはり生演奏は素敵だな…と感動しました。外出も再開し、いろんなところに出かけ、地域の方とのふれあいの機会も増やしていきたいと思っています。

また、人との距離を保つのが難しかったメンバー。人の近くにいたい、触れたいという気持ちが強くいつまでもこのままでいいのかな…と思っていた矢先です。“三密をさけよう”という世間の動きに合わせ、近づかない、適度な距離感を肌で感じ、メンバー同士、適切な距離感で接することができるようになりました。

元の生活に戻るというよりも、これから的生活をより良いものにしていく事を目指して、むくでも楽しく活動を続けていきたいと思っています。

児童発達支援 むくっこ

むくっこの変化!

やっと交流保育へ出かけられるようになったことです。3年前は近隣の保育園、幼稚園へ出かけ、同じ年代の子どもさんと一緒に遊び過ごすことができていました。散歩の途中で帰宅する保育園幼稚園のお友だちに出会い、「元気!またあそぼうね♪」と声をかけてくれて、嬉しいつながりができました。

感染症の広がりでやむなく交流保育ができなくなっていましたが、先日、子育て支援まーむの先生方が「どうぞいらしてください。」と受け入れてください、やっと遊びに行くことができました。交流保育再開です!!きらきらした表情であそぶ子どもたち。子ども同士の時間が過ごせて本当によかったです♪♪

これからも交流保育を続けていきたいと思います。

子育て支援まーむから
プレゼントしていただいた!
トンネルです(^^♪



トンネルをうえからみると~♪
なんと通っている様子がみえます!!

2023年 馬関まつり

3年ぶりに馬関まつりに参加しました。祭りの灯り、人の賑わいで、懐かしい空気を感じながら、地域の人と共に楽しめた気がします。その場にいるだけで、元気をもらいました。また来年も楽しみたいですね。



じねんじょフェスティバル2023 広がれ 地域の輪 ~メンバーの想い音楽にのせて~

日時 令和5年10月15日(日)10:15~14:00 予定 場所 じねんじょ館内 下関市生野町2丁目28-20

内容 各種コンサート、メンバー作品販売、喫茶コーナー等

※予定の為、内容に変更の可能性がございます。詳しくは、じねんじょ 083-252-2227までご連絡ください。

相談支援事業所じねんじょ » 相談支援専門員の仕事 ~終結~



これまで「アセスメント」、「プランニング」、「介入」と「モニタリング」について書きましたが、今回は「終結」について書きたいと思います。

ケアマネジメントにおける「終結」とは①プランに設定したゴールが達成され、ゴールを更新する必要がなくなった場合、②本人が希望しなくなった場合、③機関としての役割を終えた場合になります。私が担当をさせていただいている利用者の多くは、日常生活を営む上で福祉サービスが必要な場合が多いため関わりが継続していきます。しかし中には、福祉サービスを使いながら自分自身の力がついてそのサービスが必要なくなる方もおられます。相談支援として完全に終結とはなかなかしづらいのですが、モニタリングを通してご本人の気持ちを確認していくことが必要だと思います。

「終結」となる場合でも「いつでもまた」という雰囲気を大事にすることが私たちには求められています。直接的な関わりがなくなっても、ご本人に「何かあったときには相談支援専門員がいる」と思っていただければ、安心した暮らしの一助になるのではないかと思います。

看護部

変わったこと、変わらないこと

看護部からは新型コロナウイルス感染症が5類感染症になったことで変わったこと、変わらないことについて紹介したいと思います。

個人の判断となったマスク着用については、各家庭へ意向調査を行い場面に応じた着用を始めました。表情がみえやすくなつたことで言葉やサインも分かりやすくなりました。



5類に変更された後も今まで行ってきた感染対策(手洗い・咳エチケットの実施・密を避けて換気を行う等)を引き続き行っています。またいつもと違う様子がないか、今後もより気をつけてみていくことが大切です。

現在新型コロナウイルスだけでなく様々な感染症も流行しています。周囲の感染状況の動向に留意しながら心身ともに健康管理に努めていきたいと思っています。

栄養部

水分は飲みすぎても不足してもダメなのです



令和5年5月20日に「水分摂取」についての職員研修を行いました。

水分は摂取することが重要ではなく、「体内水分量」を増やすことが重要となります。体内に保有できる水分量は決まっており、それ以上の水分を摂取しても逆に体には「毒」となってしまいます。体内水分量を増やす方法としては以下の通りです。

- 「体脂肪を減らして、筋肉量を増やす」
- 「規則正しい生活」
- 「体内水分量を減らさないよう適切な水分を補給する」
- 「バランスの摂れた食生活」

水分は水としてだけでなく、食品からも摂取することができます。成人では一日約1500mlの水分補給が必要といわれていますが、年齢、体重や活動量、食事内容によってもその必要水分量は変わってきます。のどの渇きを感じたらすぐに補給するのが基本です。また、水分は浮腫(むくみ)とも関係しています。浮腫は水分が不足しても摂取しすぎても起こります。水分は私たちの生活に密接に関係しています。ここで学んだ正しい水分摂取を日々、メンバーの生活の中で活かしていきたいと思います。

寄付者氏名

令和5年7月31日現在(順不同)

株式会社フタバ工芸社様

株式会社落合商会様

岡田理様、梅崎淳様、大畑一郎様

ありがとうございました!

編集後記

今号は、コロナ禍を通じた各事業所の変化と、数年ぶりに参加した馬関まつりについて報告させていただきました。

これまでの活動や行事の場での交流に加えて、コロナ禍を通じて生まれた新たな関わりの仕方も継続していき、今まで以上にメンバーの様々な様子を地域のみなさまに発信していきたいと思います。

SNS

Facebook



Instagram

